

令和5年度 指定管理者モニタリング結果及び評価シート

評価期間 令和5年4月1日 ～ 令和6年3月31日

施設状況

施設名称	ふじみ野市立児童センター	所管課	こども・元気健康部子育て支援課
指定管理者名	シダックス大新東ヒューマンサービス株式会社	施設分類	子育て支援施設
指定期間	令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日	利用料金制導入	なし（指定管理料のみ）
導入年月日	平成25年6月1日	指定回数	3回
施設設置目的	児童に健全な遊び場を提供し、もって児童の健康を増進し、豊かな情操をはぐくむ。また、相互援助活動を実施する中で、地域の子育て支援の向上を図り、地域活動支援、地域子育て世代の交流の場を提供することを目的とする。		
施設概要	・ふじみ野市立東児童センター ふじみ野市福岡1丁目2番5号フクトピア3階 延床面積1,418㎡ 鉄筋鉄骨コンクリート造 ・ふじみ野市立西児童センター ふじみ野市大井中央1丁目1番1号大井総合支所3階 延床面積987.39㎡ 鉄筋鉄骨コンクリート造		
管理運営の基本方針	児童福祉法等の関係法令を遵守し、十分に理解したうえで、利用者のニーズに対応した事業の充実、利用促進に努め、施設の効用を最大限に発揮し、利用者へのサービス向上を図る。また、地域の関係機関や団体と連携協力し、地域の実情を踏まえた施設運営に努め、遊びを与えるだけでなく、子どもとともに遊び、遊びを通じて子どもの生きる力を養う。		
指定管理者の主な業務	・健全な遊びの場を提供し、児童の集団及び個別指導を行い、遊具その他設備の利用により児童の体力増進を図る。 ・児童に関係のある組織、機関等との連絡に関する業務。 ・自主事業の実施。乳幼児及び児童の健全育成に必要な活動の実施。ファミリー・サポート・センター事業に関する業務。		

評価項目

- 【評価基準】
- 5：指定管理者のノウハウや努力等により、要求水準を大きく上回っている場合
 - 4：要求水準を上回っている場合
 - 3：要求水準を満たしている場合
 - 2：要求水準を下回っている場合
 - 1：要求水準を大きく下回る場合（改善指導が必要）

1 施設の設置目的の達成に関する取組

施設の設置目的や市が示した基本方針、また、自ら提案した内容に沿った管理運営であったか		評価
管理運営状況	・「親育ち・子育て」を意識した子育て支援事業を展開し、子育て相談支援に努めた。 ・中高生の居場所づくりとして、運動による体力増進できる環境を整えた。また、信頼関係を築けるよう積極的にコミュニケーションを図った。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策及び緩和対応に取り組んだ。	3
区分	具体的な取組の状況・実績	
子育て支援拠点	・感染症対策をしていることで、保護者が安心して利用してもらえる環境を保ちつつ親子交流や子ども同士の遊びの輪が広がるよう心掛けた。 ・未就学児の子とその保護者を対象に子育てに関する情報交換や交流、仲間づくりができるよう子育て支援拠点事業を実施した。月1回開催している子育て講座は、「抱っこひもの正しい使い方」、「子どもの体の機能とトイレトレーニング」、保健センター職員による「初めての夏の過ごし方」など子育てに関する学びの事業を実施した。 ・子育て支援拠点として週3日、1日3時間以上の開設をした。 拠点人数 東児童センター（火・木・金）154回 5,963人 育児講座 12回 204人 相談件数 35件 西児童センター（水・金・日）154回 6,858人 育児講座 12回 297人 相談件数 41件	
中学生・高校生の居場所づくり	・中学生がボランティアとして事業に参加できる環境を整えた。年1回のお楽しみ会やハロウィン、小学生事業のお手伝いや、社会福祉協議会の「夏の初めてボランティア」を受入れ、活躍できる場を提供した。 ・中高生がバスケット、バドミントン、卓球を楽しめる時間として月曜日は16時40分から18時まで、火曜日から金曜日までは17時から18時まで実施した。部活がない日や平日の放課後も中高生のための利用とすることで、気兼ねなく体を動かせる環境を整えることができた。中高生スポーツタイムは東西児童センターで実施回数472回、年間3,667人が利用した。夏季休暇中には児童センター閉館後の18時から20時まで中高生だけが利用できる夜間開館を実施した。 中学生・高校生利用者数 東児童センター 中学生：4,468人 高校生：419人 計：4,887人（令和4年度 4,810人） 西児童センター 中学生：4,401人 高校生：354人 計：4,755人（令和4年度 3,152人）	
感染症対策への取り組みと緩和への対応	・新型コロナウイルス感染症が5類に分類され、乳幼児室には絵本や常設玩具を増やしたり、他の工作室や図書室も配置を変更するなど保護者の声に寄り添い、子ども達の利用する環境を工夫した。 ・返却された乳幼児玩具はその都度赤ちゃん用消毒液で消毒を行うことで保護者に安心して使用してもらえるよう努めた。 ・館内に自由に使用できるマスクを設置し、気になる時は使用してもらえるようにした。 ・事業では、保護者同士が交流できる事業になるよう見直しを行ったり、予約事業を自由に参加できる事業へと切り替えたりと工夫した。	

2 指定管理者の健全性

団体の財務状況や組織体制は安定していて、施設管理を継続的、安定的に行うことができるか		評価
外部専門家からの指摘事項の概要	現預金残高が十分にあり良好。売上高、利益ともに順調に推移している。	3
その他特記事項		

3 施設の有効活用

		利用区分等	予定（計画・目標） 単位	利用実績 単位	対前年比	年度目標達成率	評価	
施設利用状況		乳幼児（ファミサポ利用者217人を含む）	25, 275 人	27, 209 人	108. 8%	107. 7%		
		小学生	36, 924 人	36, 292 人	104. 6%	98. 3%		
		中学生・高校生	8, 321 人	9, 642 人	121. 1%	115. 9%		
		大人（ファミサポ利用者580人を含む）	26, 175 人	29, 901 人	115. 2%	114. 2%		
		計	96, 695 人	103, 044 人	110. 1%	106. 6%		
		（特記事項） 東児童センター 幼児：12, 652人（175人） 小学生：20, 858人 中高生：4, 887人 大人：14, 672人（516人） 合計：53, 069人（691人） 西児童センター 幼児：14, 557人（42人） 小学生：15, 434人 中高生：4, 755人 大人：15, 229人（64人） 合計：49, 975人（106人） ※カッコン内はファミリー・サポート・センターの利用者数 ファミリー・サポート・センター 依頼会員：1, 438人 提供会員：180人 両方会員：110人 年間活動数：3, 892回（令和4年度 2, 322回）						
事業実施内容	区分	協定内容・指定管理者提案		追加事業、未実施事業及びその理由				
	市指定事業	・ふじみ野市立児童センター条例第4条各号に規定する業務 （ア）児童の健全な遊びと居場所の提供 （イ）施設、遊具等の利用による児童の体力増進に関する事業 （ウ）中高生の居場所づくり 自主学習等ができる環境の整備や、夏季7月、8月に10日間以上（夜間等）居場所としての開放、 中高生の要望に応じた事業の企画立案できる指導 （エ）児童の健全な育成を目的とした講座、イベント、行事等の開催及び異世代交流等をとする為の事業 （オ）児童の自主活動の支援 （カ）児童の遊びと居場所づくりに関する情報収集および情報提供 ・地域子育て支援拠点事業に関する業務 ・ファミリー・サポート・センター事業 ・施設の利用に関する業務 ・施設及び設備の維持管理に関すること ・児童センター指定管理業務仕様書に記載する業務 ・埼玉県児童館連絡協議会に関する業務		追加事業	東児童センター 子ども会議（小学生対象） 年間キッズサポーター（小学生対象） スポーツ能力測定会（トヨタ・コニック・プロ（株）） 西児童センター 開館10周年記念イベント（全来館者対象） スポーツ能力測定会（トヨタ・コニック・プロ（株））			
	自主事業	東児童センター 【乳幼児事業】 ママの輪・パパの輪・身長体重測定・リズムタワー・りんりんリズム・親子タイム0歳、1歳、2歳コース・お話し会・4月入学児対象の小学生体験 【小学生事業】 子どもオリンピック（異年齢交流による自由遊び）・学びの種（講師事業）・遊びクラブ（制作）・子ども運営委員会・お楽しみ会実行委員会・小学生お仕事体験・年間キッズサポーター・遊びシリーズ輪車・子ども会議・子ども掲示板 【中学生事業】 中高生スポーツタイム・中高生ボランティア活動・中高生の為の夜間開館 【全来館者事業】 チャレンジタイム・お楽しみ会・ハロウィンを楽しもう・季節のイベント・バルーンアートに挑戦・今月シリーズ折り紙、ぬり絵、制作・遊びシリーズこま、なわとび・スポーツ能力測定会 【地域連携事業】 更生保護女性会の伝承遊び 地域ボランティアの英語絵本の読み聞かせ 上福岡七夕まつりの竹飾り参加 【その他】 ペットボトルキャップの回収 社会福祉協議会「初めてボランティア体験」受け入れ 学生の受け入れ ファミリー・サポート・センター サポートタイム事業		未実施事業	なし			
利用サービス向上の取組	・子育て支援拠点としての週3日だけでなく、それ以外の日も利用されている親子へ声かけをしたり相談にのったり、居心地の良い環境作りを心掛けた。 ・利用者が帰宅の際は、希望者へぬり絵の配付をした。幼児はまだ遊びたいと帰宅時に泣いてしまう事が多かったが、ぬり絵をもらおうとスムーズに帰宅への促しができ、喜ばれる保護者が多かった。 ・忘れ物等があった時は、名前を確認しその日のうちに保護者へ連絡を入れた。特に小学生が学校へ持って行く水筒は、次の日も使用するなどの理由から閉館後も受け渡しの対応をした。 ・図書室、工作室、集会室は、絵本や図鑑、人気の月刊誌や小説、漫画など幅広く設置した。寄贈も含め東西児童センターで約260冊の新しい本を配架した。							

4 利用者評価

区分	内容	評価
利用者の 要望把握	(1) 利用者要望把握方法 利用者アンケート 6月・12月 児童400人 保護者400人 (計800人)	4
	(2) 調査、会議等の内容 【保護者対象アンケート】 ①住所 ②子どもの年齢・学校の内訳 ③来館方法 ④利用頻度 ⑤情報の取得方法 ⑥利用した感想 ⑦来館した印象 ⑧職員の対応 ⑨ファミリー・サポート・センターの認知度 ⑩ファミリー・サポート・センター預かり活動の認知度 ⑪ファミリー・サポート・センター提供会員活動への興味 ⑫参加行事の満足度と感想や要望 ⑬現在の利用方法について 【児童対象アンケート】 ①住所 ②学年 ③利用頻度 ④利用時の満足度 ⑤先生の満足度 ⑥小学生向け事業の認知度 ⑦情報の取得方法 ⑧参加行事の満足度と感想や要望 ⑨置いてほしい玩具や参加希望の行事等	
	(3) 調査、会議等の結果 【保護者対象アンケート】 東児童センター ①市内在住 84% ③来館方法 車 44.5% ④利用頻度 月1～2回 45.85% ⑥利用した感想 満足・やや満足 97.5% ⑧職員の対応 満足・やや満足 99% ⑨ファミリー・サポート・センターの認知度 知っている 76.5% 西児童センター ①市内在住 83% ③来館方法 車 42.85% ④利用頻度 月1～2回 54.05% ⑥利用した感想 満足・やや満足 96.4% ⑧職員の対応 満足・やや満足 97.5% ⑨ファミリー・サポート・センターの認知度 知っている 69.6% 【児童対象アンケート】 東児童センター ①市内在住 93% ②利用児童 小学生 79.5% 中学生 18.5% 高校生 2% ④利用した感想 とても楽しかった・楽しかった 95.4% ⑤先生の対応 良い 81.5% 西児童センター ①市内在住 92% ②利用児童 小学生 78% 中学生 20.5% 高校生 1.5% ④利用した感想 とても楽しかった・楽しかった 94% ⑤先生の対応 良い 80.4%	
利用者からの 評価・要望・ 苦情等	(1) 良好とする評価 ・子どもを安心して遊ばせてあげたいと思い利用している。事業の日はママ同士のおしゃべりも楽しみにしている。 ・自由利用の日は先生方とのおしゃべりが心の癒しになっている。 ・孫の世話で時々利用しています。都内にはこのような充実した施設はなく、大変助かっている。 ・子ども運営委員会は、みんなと一緒にいろんなことができて楽しかった。 ・中高生スポーツタイムではバスケット、バドミントンがあり、他にもいろいろな遊びがあり楽しい。 ・夜間開館はいつもより長く遊べて楽しかった。	4
	(2) 苦情・改善等の要望事項 東児童センター ①おむつ交換ができるスペースがあると嬉しい。(歩くのでマットが敷いてあるスペース) ②小学生もバスケットボールをしたい。 ③先生を増やして、私たちと遊ぶ時間を長くしたい。 西児童センター ①夏に来た時、床のマットのにおいが気になった。 ②中高生スポーツタイム以外でも個人の卓球ラケットを使いたい。 ③小学生も先生のお手伝いをしたい。 《対応措置》 東児童センター ①多目的トイレにジョイントマットを敷き、動いてしまう子も安全におむつが交換できるようにした。 ②毎週月曜日はボールでバスケットリングヘシュートをして遊べる曜日を作り毎週実施した。 ③遊べる時間を「10分」など子ども達に伝え、短い時間でも対応できるよう心掛けた。 西児童センター ①年に4回定期清掃を入れてマットの清掃を実施したことに加え、毎朝マットの消臭を行った。 ②中高生はいつでも個人の卓球ラケットを使えるようにした。 ③県民の日に職員と一緒にイベントの運営に携わってもらった。	

5 事業収支

(単位：円)

	指定管理者収支（　　令和5年度　　）				市の収支				評価						
		年度計画額		収支実績額			令和5年度決算			令和4年度決算（前年度）					
		項目	金額	項目	金額		項目	金額		項目	金額				
①指定管理 業務事業収支	収入	利用料金	0	利用料金	0	歳入	施設使用料	0	施設使用料	0					
		事業収入	100,000	事業収入	35,000		行政財産使用料	0	行政財産使用料	0					
		指定管理料	62,427,000	指定管理料	62,773,535		国庫支出金	2,153,000	国庫支出金	2,140,000					
		雑入	0	雑入	0		県支出金	2,153,000	県支出金	2,140,000					
		自主事業からの充当	10,000	自主事業からの充当	0		その他	0	その他	0					
		計	62,537,000	計	62,808,535		計	4,306,000	計	4,280,000					
	支出	人件費	46,938,000	人件費	48,034,224	歳出	修繕料	0	修繕料	0					
		消耗品費	1,510,000	消耗品費	1,869,679		保険料	0	保険料	0					
		光熱水費	4,196,000	光熱水費	4,587,710		指定管理料	62,773,535	指定管理料	63,342,000					
		委託料	240,000	委託料	789,414		業務委託料	0	業務委託料	0					
		賃借料	40,000	賃借料	1,212,571		土地・建物賃借料	0	土地・建物賃借料	0					
		通信費	540,000	通信費	457,251		その他	49,747	その他	0					
		保険料	1,100,000	保険料	711,025										
		修繕費	1,000,000	修繕費	73,597										
		事業費（市指定事業）	0	事業費（市指定事業）	0										
		公租公課	0	公租公課	0										
		一般管理費（本社経費等）	6,973,000	一般管理費（本社経費等）	1,981,903										
		計	62,537,000	計	59,717,374		計	62,823,282	計	63,342,000					
		収支	0		3,091,161		差引	△ 58,517,282		△ 59,062,000					
②市への納付金 ※納付金がある施設のみ	市への納付金	支出	0	支出	0										
③最終収支（①－②）	収支	0		3,091,161											
●自主事業収支	自主事業収支	収入	100,000	収入	35,000										
		支出	90,000	支出	35,000										
		自主事業収支	10,000	自主事業収支	0										
分析	人件費比率【人件費／指定管理者事業支出】									80.4%					
	事業収支における経営分析				最低賃金の過去最大幅の引き上げや物価の高騰、またホームページを管理する委託業者の変更やフクトピアにおけるLEDのリース料の計上等によりそれぞれ支出が増加したが、一般管理費の削減等により黒字となった。その中で光熱費高騰による支出増については、指定管理料の増額による補填を行ったことで負担軽減となった。										
	一般管理費が、計画額と実績額で異なる理由				エリアマネージャーについて、以前は放課後児童クラブと児童センターの2名で担当をしていたが、指定管理期間に1名での管理に変更となった事で経費等を削減した事が要因。										

6 管理運営全般

※すべて「適」で「3」。「4」・「5」・「否」とする場合は、必ず特記事項欄に理由を記載すること。

区分	確認内容		適否欄	評価
市との連携	1 市への報告、連絡、相談又は協議が適切に行われたか		適	3
	2 市からの指示等に対し適切な対応が図られたか			
職員配置	1 施設管理運営に必要な人員が適正で有効に配置されているか		適	
	配置実績	平日5名以上、土日6名以上、学校休業期間中の平日7人以上 (統括責任者たる所長及び副所長含む)		
	2 専門性を備えた職員、有資格者が必要に応じて配置されているか			
	3 労働関係法令を遵守し、職員の適正な労働条件を確保しているか			
	4 職員の資質・能力向上を図り、施設を適切に運営するための取組みや研修がなされたか			
平等利用	1 特定の団体や個人に偏らない、公平・公正な、透明性の高い運営がなされたか		適	
	2 利用許可、減免等の事務手続きが適切に行われたか			
経理	1 施設の管理運営に係る収支の内容や、指定管理料、利用料金等の取扱いは適切に行われたか		適	
	2 収支内容等を記載した帳簿を整備しているか			
施設・備品の維持管理	1 必要とされている保守、点検、清掃、保安、警備等、必要な維持管理業務が確実にされたか		適	
	2 備品は台帳、目録等を整備の上、管理が適正に行われたか			
その他	1 日常的、定期的に業務の点検、監視が行われたか		適	
	2 事業計画・報告書、予算書・決算書や、施設の利用状況などの定期報告、点検・検査結果報告などが適切な時期に提出されたか			
特記事項				

7 危機管理体制

※すべて「適」で「3」。1箇所でも「否」の場合は「1」。「4」・「5」・「否」とする場合は、必ず特記事項欄に理由を記載すること。

区分	確認内容	適否欄	評価
安全対策	1 危機管理マニュアルが整備されているか	適	3
	2 危機管理マニュアルの内容が職員に周知されているか		
	3 常に、日常の事故防止などに注意を払っているか		
個人情報保護	1 施設の利用者の個人情報を保護するための対策が適切であったか	適	
防犯、防災 対策	1 防犯、防火などの対策、体制が適切であったか	適	
	2 防災訓練など、必要な訓練が実施されたか		
緊急時対応、 体制	1 事故発生時や非常災害時の対応などが適切であったか	適	
	2 必要な保険に加入するなど、利用者などからの損害賠償請求への対応措置が講じられているか		
特記事項			

総合評価

【総合評価】 A：とても優れている／B：優れている／C：適正である／D：努力が必要である／E：改善が必要である

総合評価		子育て支援施設	
評価項目	評価		
総合評価	施設の設置目的の達成	3	C
	指定管理者の健全性	3	
	施設の有効活用	3	
	利用者評価	4	
	事業収支	3	
	管理運営全般	3	
	危機管理体制	3	
評価理由		・乳幼児から保護者まで、また地域の方々も交えた幅広い層をカバーする様々な事業展開により、施設設置目的を達成したことに加え、「親育ち・子育て」にも貢献することができたため。 ・「中高生スポーツタイム」の実施日を、月曜日のみであった昨年度から月曜日から金曜日に拡大するなど、中高生対象事業をより充実させ、同時に一人一人を大事にした声かけ等による関係構築を継続したことによる居場所づくりに注力した結果、中高生の利用者が増加したため。 ・利用者（児童・保護者）アンケートにおいて、利用した感想における「満足」と「やや満足」の合計が、東児童センターでは96.5%、西児童センターでは95.2%と非常に高水準であることから、利用者からの支持を得られていることが分かるため。	
取組・改善案等	前年度からの課題・改善事項	実施状況	次年度へ向けての目標・取組・改善事項
	・子ども達の声が事業や運営に反映できるよう環境を整えたい。 ・中高生へ積極的な声掛けで関係性をより深めたい。 ・避難訓練を児童センター便りや館内ポスターで周知していき、利用者の参加を促していきたい。	・子ども会議、年間キッズサポーター、先生キッズ、子ども運営委員会、中高生ボランティア、利用者掲示板、利用者アンケートと、子ども達の声拾える機会を増やしたことで、より一層ニーズを把握でき、「遊びの環境」や「事業」等へ反映していくことができた。 ・中高生スポーツタイム事業を主軸に来館した中高生と交流をもつことで、放課後等の居場所となり、児童センターが必要とされる環境を整えていく事ができた。 ・利用者にも避難訓練へ参加してもらうことで、自然災害等を想定した動きを知ってもらえた。 (避難訓練の参加者数) 東児童センター 122人 西児童センター 229人	・園児対象の事業を希望される声がある為、既存の事業へ取り入れていく。 ・予約なしで利用できる事業を増やす事で、自由利用しながらプラスで楽しめることができると良い。 ・児童センターで保護者への周知活動を積極的に行い、ファミリー・サポート・センターを知るきっかけを増やしていく。 ・小中学生の来館数が増加している。利用者増に伴い怪我也増えてきている。利用者が玩具、遊具、設備等安全に遊べるよう安全点検をしっかりと行う。 ・仕事の効率化を東西児童センターで見直しを行い、子ども達に向き合える環境を作っていきたい。

指定管理者自己評価

(1) 評価期間の取組に対する評価

①サービス向上に向けての取組

・周知活動として、年間の乳幼児事業が掲載されている東児童センター「バンビルーム」、西児童センター「かめさんルーム」を発行。保健センターへ各児童センター500枚の配布を依頼した。また、毎月の「児童センターだより」は主管課を通して各子育て支援拠点へ配布、児童センター内でも毎月200枚ほど持ち帰りがあった。令和2年からスタートした小学生向け「子ども新聞」は東西児童センターで両面1枚とし発行している。その月の小学生事業や人気の玩具、新しく入った図書の紹介などの情報を掲載しており、ふじみ野市全放課後児童クラブや国際交流センター、こども食堂へ配布した。児童センターでも持ち帰る小学生が多く、毎月約600枚の配布をした。館内には事業のポスターを掲示することで、来館した乳幼児から中高生まで周知が届くよう努めた。ホームページは毎月月初に更新し、多くの利用者へ情報を届けた。

・小学生や中学生が自らの意見を述べるができる環境として、事業実施後に、子ども達から感想や意見を聞く時間を設けたり、少人数で輪になり話し合う「子ども会議」を実践した。また、子どもリクエストBOXやおしゃべり掲示板では、たくさんの小学生が声をあげてくれた。リクエストに対して職員のコメントを館内に掲示することで、意見を出してくれた子ども達との交流を図った。

・小学生の体力増進のための事業として、毎週土曜日に遊戯室で集まったメンバーみんなで楽しむ事業を実施した。子ども達の基礎体力向上や、他校、異学年交流による遊びができることで、子ども達の協調性、社会性を育むことができた。

②業務の効率化に対する取組

・児童センターを安全に使用していただけるよう、1日4回館内安全点検を実施し、駐車場や駐輪場等の巡回も行った。土日や長期休みなど子ども達が多く来館する際は1階の巡回を増やし対応した。また、大型遊具や施設の備品の毎月チェック表をもとに確認し安全な開館に努めた。

・来館者がいない時は使っていない部屋の電気を消すなど日々の節電を心がけた。事業でも牛乳パックやトイレットペーパーの芯、短くなった色鉛筆などの廃材を利用した制作を取り入れた。

・多数の事業をこなしていくため、事業の反省を記録しいつでも振り返りができる環境を作っている。事業や各部屋、書類等を担当化することで、仕事誰かに偏らないよう工夫した。

・職員間で情報共有ができるよう、申し送りノートの活用及び玩具管理表などを使用した。また、朝礼や職員会議で、必要情報を共有し理解することで、スムーズな運営に努めることができた。

・掲示物の見直しを行った。毎月貼り替えていた事業ポスターを年間掲示に変更したことで、毎月の業務負担が軽減し、利用者にも年間予定を伝えることができた。

③その他

・開館する全ての日、小学生帰宅時間に職員は誘導旗を使用して、子ども達が安全に道路を渡れるよう誘導を行った。

・利用者の怪我、苦情、館内備品等の破損などのトラブルが発生した場合は、すぐに主管課へ連絡し情報共有を行い、後日事故報告書を提出した。難しい案件に関しては主管課へ相談し、ご教授いただき解決へ進むことができた。

・ペットボトルキャップの回収を行った。児童センターを利用する方だけでなく、近隣に住んでいる方も持ち込むことが多かった。子ども達にも興味をもってもらえるようスタンプカードを発行した。集まったペットボトルキャップは専門の回収業者へ連絡し引き取りを依頼した。

・AED研修、エビペン研修、熱中症研修、嘔吐対応訓練、ヒヤリハット共有など社内研修を利用した学びを安全な運営をする為のスキル向上として全職員が実施した。また、児童厚生委員研修や子育て支援従事者研修、ファミリー・サポート・センターアドバイザー研修など積極的に参加した。

・ファミリー・サポート・センター

・依頼会員からの依頼に対し、安定した提供会員の紹介ができた。アドバイザーは、報告書の提出時など普段から会員とのコミュニケーションを大事にすることで、信頼関係が築けている。

(2) 管理業務実施上の課題

・来館者数の増加に伴い時間帯利用が100人を越えると、職員定数では対応が難しい事が多くあるようになっている。窓口業務として、一人は受付の入退館システムへの入館退館の打ち込みや登録の対応、小学生以上は荷物等の預かり、一人はおもちゃの貸出し、返却・放送などの業務、週3日の子育て支援拠点や子どものケガその他の突発的な対応、遊戯室や東児童センターでは屋外プレイヤードの安全見守りがあり、特に小学生が利用する時間に児童厚生員として子どもと一緒に遊ぶ、悩みを聞くなどの時間がとれている。また、自主事業実施については職員を増員し実施しているが、事務事業とされる広報作業、報告書等の作成、事業準備、研修、埼玉県児童館連絡協議会役員等の担当などもあり、平日5人、土日6人は足りていないと感じる。

・西児童センターでは「学習室」の利用環境を整えたいと考えている。中高生の電子機器を利用した学習を求められることが多くなっており、東西児童センターでも時代に合わせた電子機器の学習を可とする環境が必要とされてきている。

・来館者数が増える土日や長期休暇は、保護者の荷物を置く場所が確保できないことがあり、対応に難しさを感じている。遊びの場が危険のないよう保護者へ荷物の管理を伝えている。

(3) 次年度以降の取組

・子ども達一人一人が、児童センターでの遊びや事業など経験を通じて成長し、自己肯定感を高めていける環境を作っていく。
(子ども運営委員、中学生ボランティア)

・職員のさらなる質の向上や安心安全に児童センターを運営していく為に、東西会議を増やし事業や取組の情報交換や共有に力を入れたい。

・埼玉県児童館連絡協議会の県副会長と監事、西部地区の監事と2年間の担当を滞りなく対応していく。